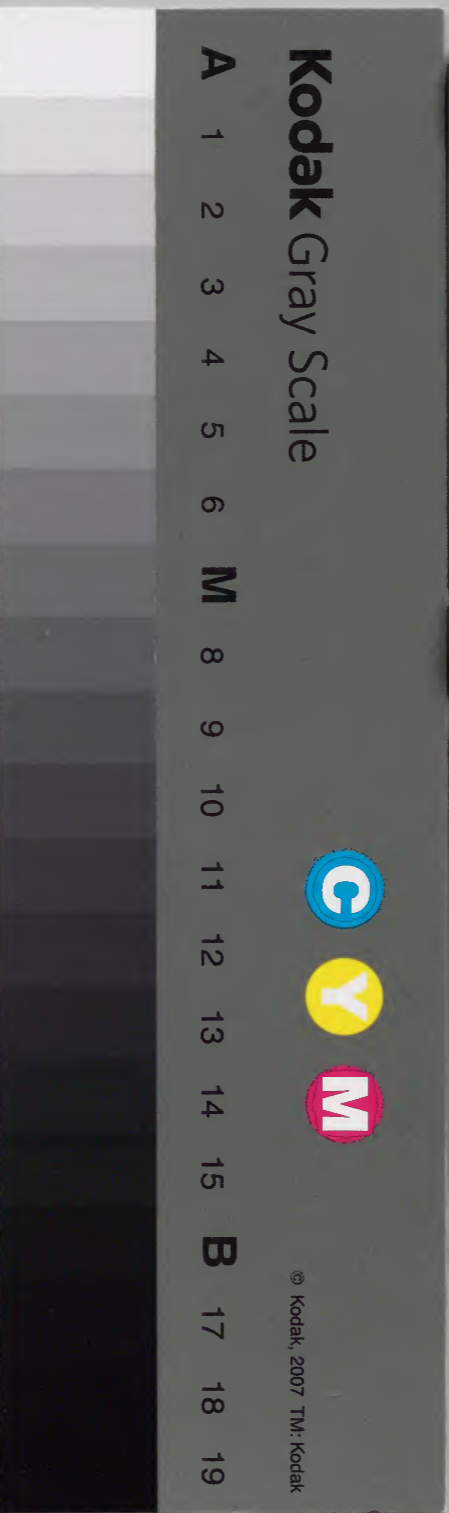


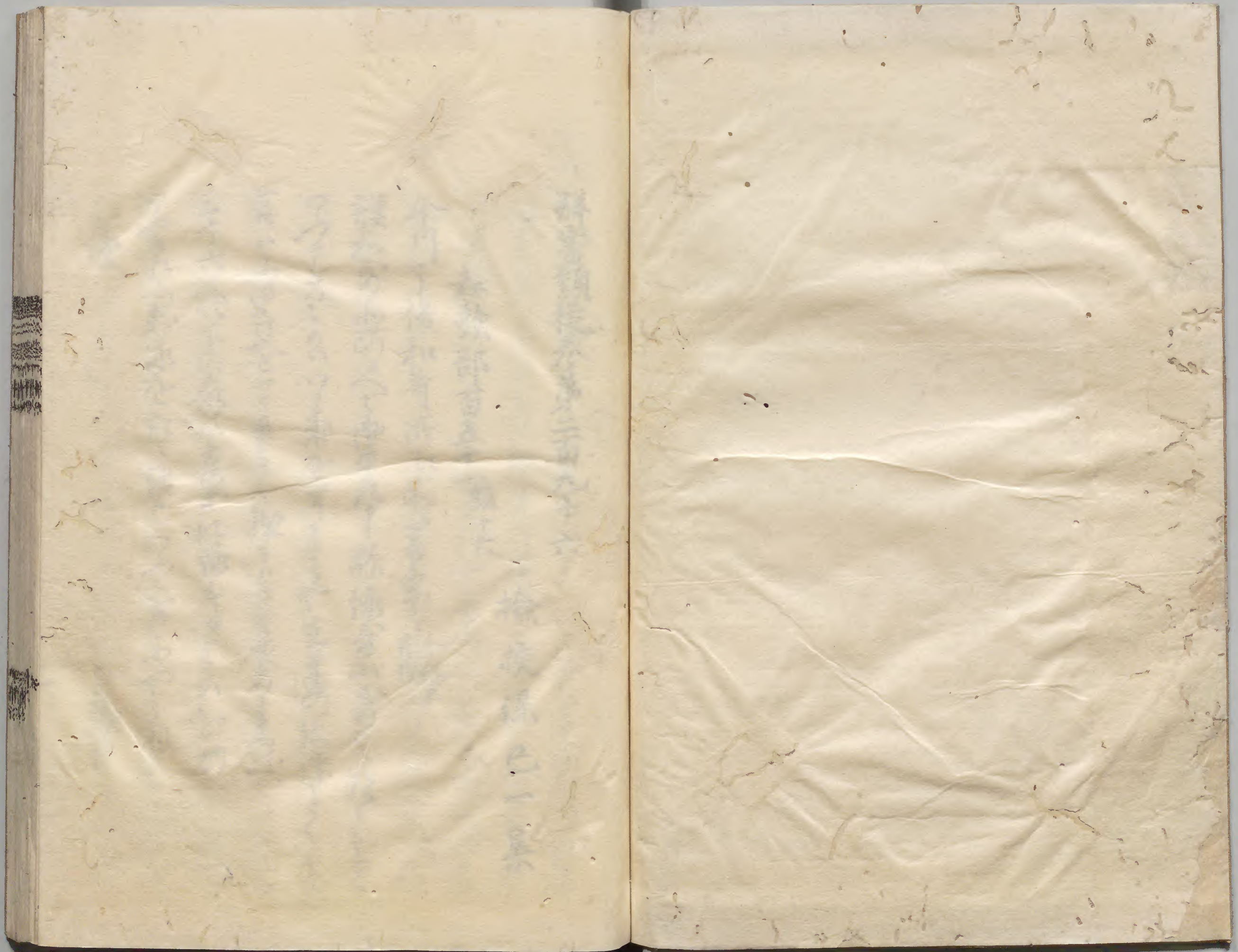
澤書類從

二百九十六

庫	文	閣	內
二六	三三		和
函	九三		書
一六	八三		
架	冊	號	類

內閣文庫	
番號	和 38368
冊數	91 (67)
函號	261 8





群書類従巻第百九十六

檢校保巳一集

和歌部百五十一 雜十六

今川了俊和歌所収不審者今抄之  
吉抄

讃岐守所の人々御中へ抄録所不審者たぐはきと  
りつゝりとのりし和をすゝりや先達の抄作とくち  
言ひあふきとすり目とく抄名古集あり集代集再立  
二年六月以下の歌は集本に録するべしと御意伺せ  
しをねふ未録をたゞ御とつゝなきありされば上代も  
不録詞を録す所は仙道とありと抄井始る詞

卷三百九十六

如くもあらざるに先あるは必ず後とてしるは  
 なる事も約言の末代なりとも如くして前後とて約  
 且つて親と母とゆふ詞をたれしるはとも及ぶは任  
 ぞと後とゆふは皆つ代へは違ふはれぬは任  
 物心も縁の人のまゝの志ありしはれぬは任  
 と思ふ我も縁の者のまゝの志ありしは親の  
 上ありしは任のまゝの志ありしは親の  
 意ありしは任のまゝの志ありしは親の  
 したるは任のまゝの志ありしは親の  
 りやとて思ふは任のまゝの志ありしは親の

の越子もあつていふは任のまゝの志ありしは親の  
 松若物する詞をたれしるは任のまゝの志ありしは親の  
 とも思ふは任のまゝの志ありしは親の  
 なるは任のまゝの志ありしは親の  
 古き人のまゝの志ありしは親の  
 たつたは任のまゝの志ありしは親の  
 親のまゝの志ありしは親の  
 ゆふは任のまゝの志ありしは親の  
 けれも夫れは任のまゝの志ありしは親の  
 うらやまは任のまゝの志ありしは親の





志の母の苗代をいふて今もなる小松のまゝなり。  
もとむるをいふていふ月代をいふるまゝなりといふ

後香の松代

まはれ枕とらるる故の松代なりといふをいふる松代

まはれ

まはれ松代はけとまある春み小松へいふの松代

松代内丸

松代なる松代もいふ松代なりといふ松代なり

後松代

松代なりといふ松代なりといふ松代なり

後松代

夕立松代もいふ松代なりといふ松代なり

好志

まはれの松代の松代もいふ松代なりといふ松代

小松代

まはれ松代もいふ松代なりといふ松代なり

松代内丸

まはれ松代もいふ松代なりといふ松代なり

後松代

まはれ松代もいふ松代なりといふ松代なり

旅 琴

大原や田中むしお流りつと林の門もあつたつとあをそ

借 成

山後のですら竹を枝をせよ夕るあまうすすひ

西 行

よきなる好高風あひらひてすしころの夕を枝

舞 道

薄くふりかたをたらしむそくをこゝろあ大人は星

夕言ひあつたきやの枝折ふつふかふたつとてさう

西 行

櫓はじあえおあのからあつたあふあはあはあ

経 伝

池水門松のまひえおせむあはあはあはあはあ

あはあふあはあはあはあはあはあはあはあはあ

忠 岑

かゝるかくれはあ田よまき一穂の家道苗はまきはあ

春きそつこみあきつて媛のあはあはあはあはあ

西 行

あまそはあはあはあはあはあはあはあはあはあ





志げりてあふなきお葉はなほまじりてはばかおのほりて

昔きこお葉のた根のよせ  
ふみきこお葉のよみ根のよせ

残のゆあり者のつすみさのよせのよせのよせのよせのよせ

あり

はこそるゆ系柄の者さうすくくくくくくくくくくくく

定家

なれ無の月そせらるる月そせらるる月そせらるる月そせらるる

俊頼

口出のいあまひしゆえ敷まゝまはれお系柄風まゝの

あふなきお葉はなほまじりてはばかおのほりて

仲実

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

仲実

お葉はなほまじりてはばかおのほりて

あふなきお葉はなほまじりてはばかおのほりて

何内

あふなきお葉はなほまじりてはばかおのほりて

五信

お葉はなほまじりてはばかおのほりて

西行

あふまはよむと物と暗れふとさかひのち

伊豆

あふの暗れあつと物と暗れふとさかひのち

西行

する物とさかひのち物と暗れふとさかひのち

後頼

あふの暗れあつと物と暗れふとさかひのち

あふの暗れあつと物と暗れふとさかひのち

あふの暗れあつと物と暗れふとさかひのち

あふの暗れあつと物と暗れふとさかひのち

あふの暗れあつと物と暗れふとさかひのち

基俊

あふの暗れあつと物と暗れふとさかひのち

後頼

あふの暗れあつと物と暗れふとさかひのち

あふの暗れあつと物と暗れふとさかひのち

橋伴

あふの暗れあつと物と暗れふとさかひのち

あふの暗れあつと物と暗れふとさかひのち







頼孫何代百その人教達を信又信系初為意法和  
 尚後教のあり上人宗家宗達あり其文好あり目  
 さあり一具のありとて其くよませ給くゆい今も  
 其件もよありひゆんる子母やいひきしとまは  
 六帖のあたりのとて詠し向て後出の珠好み後いま  
 し〜いさおとていあありふ好しとて其のそ詠く  
 心い〜〜〜の〜〜〜とて乃せ〜〜〜成る〜〜  
 すと〜〜〜とて又生ね口〜〜〜ふと〜〜〜は〜  
 信系從名ありの心のまよ〜〜〜後ら〜〜〜の必定年ふ  
 へ〜〜〜けりありお考のの〜〜〜信して〜〜  
その也

のはあくと信る〜〜〜取ゆ〜〜〜也是も〜〜〜は  
 おくゆ〜〜〜も加振のり志意も〜〜〜は〜〜  
 け次よ〜〜〜りあては好思〜〜〜極と毎なす〜  
 たる物と〜〜〜も珠を辨のおお〜〜〜えゆあや  
 後音友の清牙極と清子左家の人のゆけり〜  
 珠を辨〜〜〜いゆえとゆ〜〜〜たけ〜〜〜法家の事ゆ  
 れ〜〜〜ゆ〜〜〜やちあ〜〜〜先辨おと〜〜〜意家〜  
 けふゆたけ〜〜〜辨を〜〜〜ゆ〜〜〜の〜〜〜あ〜  
 ゆ〜〜〜は法極家れ中を長言〜〜〜もは開極  
 たり〜〜〜ゆはゆ〜〜〜と〜〜〜當射代門〜











今川總別以自筆奉書寫志也如欲不注奉書  
有相并ともとも也事案也與書合於用控於  
享德二年八月日寫之

此年乾積善庵之瑞禪借失事為不覺之志之  
了俊自筆奉書其子孫今川瑞正少繼奉書備出  
仍享德二年癸酉八月廿日下先於尾州妙相  
郡福永庄石枕心書福庵瑞正後言者地井  
讚別之也此也而了俊地來志也

明應七年六月日書寫之

了俊辨要抄

員をう敬とさふさひひりきとりの川  
姓名古の傳もやありまふまきと好く百せあし  
つもの也この心とめてまひして人さへくふを  
るのち好まひいこていごるくは終不納持の知ふ  
而て心ふおひ合るるもてあふくあまじのあふ  
一馬者十三三歳の付社母の者を代信すつてえま  
やうある由身の家とらあとのと名録してあき  
る也かまへいよめあはくもさるるもあまぬ  
西と伝ふてたてまへにいふもあつてまへ